

10月29日（土）好天に恵まれ、平成23年度広州日本人学校大運動会が行われました。

この日のために各学年で準備し練習してきた成果を出そうという思いが、開会式の時から児童生徒の真剣な顔つきから伝わってきました。競技が始まると、力いっぱい表現し、全力を出し切る一人ひとりの晴れやかな表情がグラウンドに輝きました。

小学部低学年はかわいらしいダンス、中学年はソーラン節、高学年はヒップホップと組体操、中学部はカンフーを演技しました。それぞれの演技にその学年らしさが存分に発揮されており、とても見応えがありました。

各学年の競技にも特色が出ていました。徒競走やハードル走、リレー走、投球競技、騎馬戦、3人4脚など多様な競技が真剣に行われました。全校競技では、今年は大縄とびに挑戦しました。小学部低学年、中学年、高学年、中学部と段階的に跳んでいきます。各組のチームワークが問われる緊張感のある競技となりました。最終種目の色別対抗リレーでは、各学年の代表選手が小学部1年生から中学部3年生まで順にバトンをつないで走りました。体の小さい小学部1年生から立派な体格の中学部まで学年順につながっていくバトンリレーと応援席から一生懸命に声援を送る児童生徒の姿は、広州日本人学校を象徴しているように思いました。

また、本校の特色の一つにタテ割り活動が挙げられます。運動会では、小学部1年生から中学部3年生までの児童生徒が四色の組に分かれて、学年の垣根を越えて協力して応援団を組織します。応援団の練習はすべて休み時間に行われました。どの組も応援合戦の優勝『白雲賞』を目指して、約3週間にわたる練習を積んで、運動会の日を迎えたのでした。四色四通りの応援が繰り広げられ、見応え充分の応援合戦となりました。どの組が白雲賞をとってもおかしくない、すばらしい応援合戦でした。特筆すべきは、児童生徒席での応援態度のすばらしさでした。一日を通して大きな声で一生懸命に声援を続ける姿勢には、たいへんすがすがしいものがありました。

